

岡元 和文

ひやくじゆ 百寿万歳

年末を迎えると救急車のサイレンの音が騒がしい。師走は救急車搬送数が最も多い時期である。アイさん、100歳が救急搬送されてきた。お昼に食べたお餅が喉につかえたようである。息を吸うときにゼーゼーと喉に物が詰まった音がする。吸気性喘鳴である。また、喉仏が吸気時にひどく胸の方に引き下げられる。胸の肋骨と肋骨の間が吸気時に異様に凹む。典型的な窒息所見である。私たちは、救急車が救急外来に着くや否や、すぐに、酸素マスクで酸素投与を開始し、喉頭鏡で喉の奥を覗いた。小さな餅のかけらが喉頭の上を覆っているのが観察された。

100歳以上の高齢者数は、毎年毎年、増えている。今年日本全体で過去最多の5万8820人になった。このうち、87%は女性が占め、男性はわずか13%である。男性にとつて百寿を迎えるのは狭き門である。以前、ベストセラーになった「ひとりの老後」はこわくない(松原惇子著、海竜社)を家内が密かに読んでいたのを知った。もう老後に備え始めたのを知つて心は穏やかでない。

医学の進歩は凄まじい。新しい薬が次々に生まれてきている。C型肝炎は完治するようになった。手足の不自由な人が街を闊歩できるようなものも遠くない。平均寿命も男性80.2歳、女性86.6歳と年々延びてきている。おひとりさまの老後でなく、男女の区別なく、夫婦手を取り合つて百寿を迎える日も夢ではない。



イラスト/森田 宏子

Contents

特集 紡ぐ
信州大学 繊維学部「ハナサカ軍手プロジェクト」
伝統を紡ぐ糸の町 1.2

特集 紡ぐ
歴史を紡ぎ次の世代へ 光明観音堂 3.4

お知らせ
【丸子中央病院の理念】「人間ドックのご紹介」
【全国病院広報研究大会 BHI賞・Marukko】デザイン賞受賞 5

トピックス
Marukko TOPICS 6



伝統を紡ぐ、糸の町



あたたかくて丈夫、しかもファッショナブルでチャーム、お出かけにもぴったり！
「ハナサカ軍手プロジェクト」は信州大学繊維学部の学生たちの熱い志から
スタートしたプロジェクト。長野県上田市から日本全国へ1人でも多くの方に軍手イを
お届けし、日本の冬を盛り上げよう！

上

田市は、明治から大正にかけて「蚕都」と呼ばれ蚕糸業において、経済的、社会的、そして文化的にも幅広い分野で日本を支えていました。その特色ある地域性から、日本唯一の繊維学部を持つ信州大学が上田市にあることも決して偶然ではありません。

先輩たちの意思を受け継ぎ2年生から4年生の27名が活動しています。「繊維学部の特徴を活かし、たくさんの人たちに元気になってもらえる活動ができるのが魅力的でした。」そう語るのは今年初めてプロジェクトに参加した2年生です。

そんな信州大学繊維学部の学生が「長野の冬に合った明るく楽しいアイテムを作れば、街を歩いてもらえるのではないか」という思いから「ハナサカ軍手プロジェクト」が結成されました。今年で6年目を迎えます。現在は、

デザインは、手に取ってもらえるように偏らないことを意識しています。上田の商店街や、ショッピングモール、インターネットで販売していますが、売れ行きは順調なうえ、多くの企業ともコラボレーションが実現しています。このプロジェクトがこれまで多くの人に賛同を得られたのは理由があります。寒い冬を明るく楽しく通学出来るように、「ちび軍手」を毎年子どもたちに寄贈しているのです。「ちび軍手」を作るために必要になる資金は、軍手デザインの選定、色、柄の



「ちび軍手」の贈呈式の様子。小学生たちの無邪気な「ありがとう」に、メンバーもつられて笑顔に。



柄のデザインや印刷、パッケージはメンバー全員の手でひとつひとつ愛情を込めて行います。「大人でも着られるデザインかな?」「これは男性向けかな?」と考えながら、カラフルなデザインを完成させていきます。

選定など1ヶ月かかりますが、贈呈式で小学生に喜んでもらえる瞬間があると思うとやりがいを感じます。「上田市内の小学生対象に始めたこの活動も、現在は上田市外の小学校へも寄贈出来るようになってきました。長野県北部地震で被災した栄村の小学生全員の手にも、毎年届けられています。」

上田の街には色とりどりの軍手イが花を咲かせています。「日本中の人たちが上田の良さを知って、糸の町、上田の伝統文化に触れる機会に貢献できたら嬉しい。」子どもたちを笑顔にする地域に根差したこの活動は、上田市を拠点とし、大きな輪になって全国に向け花を咲かせようとしています。



真剣かつ熱い議論を交わす学生達の会議風景。

今年、上田市の小学校に配布を始めて6年目。1年生から6年生まで全ての子どもたちに「ちび軍手」が行き渡る特別な年です。ペンク、

Ondemand Remake/
ハナサカ軍手プロジェクト

〒386-0018
長野県上田市常田2-27-17HOTEL2F
mail:guntie-support@hotmail.co.jp
HP:http://www.guntie.net
tel:080-3666-2118 (担当:菅)



歴史を紡ぎ

光明観音堂

次の世代へ



昭和10年よりこの地を見守ってきた光明観音堂。
第1回まるこベルシティまつりの成功で、再び人々が集まり、にぎやかな声が響き渡った。

中 丸子交差点の一角、南東に少し下がったところに小さなお堂があります。このお堂は、かつて養蚕が丸子地域で栄えていた頃から、この地を見守り続けてきました。

当時の日本は、昭和4年に始まった世界恐慌の影響を受け、農産物の価格も下落し、農村は壊滅的な打撃を受けました。この丸子地域でも昭和5年頃から、農商工業が経営困難となり、町に失業者があふれていました。この苦境を乗り切るために、当時町長であった金子金平が鐘淵紡績株式会社(後のカネボウ)の誘致に成功し、丸子の発展に

つながっていきます。

工場の敷地は54,000坪で、毎日およそ800名の人々が丸子工場建設に従事しました。ところが、当時としては大規模な工事であり、負傷者が後を絶ちません。そこで、工場の発展と工事の安全を願ったのが、昭和10年に建てられたのがこの光明観音堂だったのです。

「建立当初から、例大祭が行われており、昭和30年頃は30軒ほどの屋台がずらっと並び、それはにぎやかでした。」

こう振り返るのは、今年1月より、上田市の中丸子(旧丸子町)下組分会長の中山和夫さんです。町の発展を見守ったこのお堂には、地域

の住民たちが足しげく参拝に訪れました。毎年8月に行われる例大祭は、お供え物のりんごが出る時期ということから、りんご祭りへの愛称でも親しまれました。

しかし、丸子の復興、発展に貢献したカネボウ丸子工場は平成8年に閉鎖してしまいます。時代の流れとともに高齢化も進み、お祭りの意義を知る住民も少なくなってきました。

この状況を打開しようと計画されたのが、平成26年8月に開催された「第1回 まるこベルシティまつり 光明観音堂例大祭りりんご祭り」です。中丸子自治会とカネボ

ウ工場の跡地に立ち並ぶ商業施設、レストラン、公的機関、医療福祉施設などが連携し、この工場跡地を「ベルシティ」と名付け、お祭りの再興を試みたのです。「地域の祭りは地域で守っていこう」という趣旨に賛同していただいた上田市商工会、まるこトットコ会などにもご協力いただきこのお祭りが実現しました。

約3,000人の方に来場いただきました。子供から大人まで幅広い年齢層が光明観音堂を訪れる姿に「例年以上のにぎわいになり、まるで昔のりんご祭りが戻ってきたようです。」と中山さんの顔からも笑みがこぼれます。「この地域の歴史を、次の世代へつなげていきたいです。」現在、光明観音堂の世話人も務めている中山さんにとって、このお祭り地域との更なる発展がこれからの目標です。



【光明観音堂】
【鉄道】
○長野新幹線「上田」駅からバスで25分
千曲バス・JRバス「中央病院前」停留所下車徒歩3分
○しなの鉄道「大屋」駅からバスで10分
千曲バス・JRバス「中央病院前」停留所下車徒歩3分
【車】 上信越自動車道東部湯の丸インターから25分

長野県縦断駅伝競走に出場



2014年11月15日(土)・16日(日)に行われた、第63回長野県縦断駅伝競走に、当院の作業療法士 栗原泉生さんが出場しました。郷土の代表15チームが出場し、長野市から飯田市までの22区間217.5kmを2日間で競うレースです。

今回で16回目の出場となる栗原さんは、千曲坂城チームに所属しています。第7区(三反田公民館前~長和町長門町民体育館前)の8.6kmを走行した栗原さんは、「これからは、息子も中学生になり、長野県縦断駅伝に出場できます。一緒に走れることを楽しみに日々の練習にこれからも励みたい。」と話してくださいました。

駅伝の当日は、患者さんも応援に駆け付けて下さいました。皆さまの応援、ありがとうございました。

救急医療功労者厚生労働大臣表彰 受賞

当院は平成26年9月9日、救急の日に平成26年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。当院は昭和41年に救急告示病院となる以前から長年にわたり救急医療を行っております。特に近年は救急患者数も増加していることも認められました。また、病院内だけでなく地域での初期救命にも力を入れており、平成23年よりAHA(アメリカ心臓協会)公認プログラムのBLS・ACLSコース(一次・二次救命処置)を開講しています。これまでインストラクターチームによる、他の医療機関や一般市民向けのコースも開催してきました。これからも、AED(自動体外式除細動器)について地域のみなさんと学び触れていただく機会を増やすなど、地域全体の救命率向上に努めて参ります。

BLS・ACLSコースに関する申込・お問合せ

丸子中央病院 庶務課 0268-42-1111(代表)



●発行
特定医療法人 丸山会 丸子中央病院 庶務課 広報係
Marukko(まるっこ)制作委員会
〒386-0405 長野県上田市丸子1771-1

●編集・発行
北澤 淳一/安藤 あすか(丸子中央病院)

●アートディレクター
五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)

●デザイン
MOKUBA.CO.,LTD.

●お問い合わせは…
丸子中央病院 庶務課
Marukko(まるっこ)制作委員会まで
TEL.0268-42-1111
月曜日から金曜日、10時~17時
(祝日・休日・年末年始を除く)



光明観音堂で中山さんとの取材
貴重なお話を有り難うございました。

昨年未、当院のエントランスホールを飾ったペニヤ板製のクリスマスツリー。材料は上田市の廃材などを使ったもので、きれいなだけでなくエコなツリーだったのです！去る11月22日にツリー飾りつけのワークショップを行い、小学生以下のお子さんとその保護者にお集まりいただきました。子どもたちが夢中になって色を付ける姿、飾りつけに喜ぶ姿にスタッフ一同癒されました。今後も地域の皆さまが参加できるイベントを企画いたします。お楽しみに。

編集後記

【丸子中央病院の理念】

本院は、質の高い医療の提供を通じて、地域のしあわせ創りに貢献します。

丸子中央病院の方針

1. 患者さんの権利の尊重と療養環境の充実
2. 医療従事者の育成とチーム医療の推進
3. 健全な病院経営
4. 地域おこしへの貢献

【人間ドックのご紹介】

~地域のしあわせ創りのお手伝い~

皆さんの健康としあわせを支援することが人間ドックの役割です。早期発見・早期治療だけでなく、お一人、お一人のライフスタイルにあった生活習慣病予防についてもアドバイスいたします。くつろげる空間づくりを心がけ、フランス料理の専属シェフによるお食事もお楽しみいただけます。一年に一度、健康を見つめなおす機会にお役立てください。



みなさんのお声

『フランス料理のシェフによるランチをととてもおいしくいただきました。』

『車椅子での利用ということで心配だったのですが、丁寧な説明と優しい対応で嬉しかったです。』

『ラウンジの景色もきれいで、リラックスして人間ドックを受けることができました。』

〈丸子中央病院 人間ドック〉

(2014年 丸子中央病院 人間ドックアンケート結果より)

●お申込み方法：TEL.0268-42-1113(健康管理部 直通) ●電話受付時間：月~土 10:00~12:00/14:00~16:30

【全国病院広報研究大会 BHI賞・「Marukko」デザイン賞 受賞】



今年、優れた病院広報活動を顕彰する全国病院広報研究大会HISフォーラム2014において当院の広報事例「院外広報誌『Marukko』をきっかけに地域と病院が成功させた病院結婚式」が入選いたしました。本誌「Marukko」についても、地域に欠かすことが出来ない医療機関の広報誌として佳作をいただきました。今後も当院は、患者さんや地域の方々に、体も心も元気になっていただけるよう地域とのコミュニケーション活動を大切に考えていきます。

